

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成15年 1月

病害虫防除技術情報

No.14 - 2

岩手県病害虫防除所

平成14年イネ墨黒穂病の発生と被害特徴

平成14年、イネ墨黒穂病による玄米の汚染が確認され、産米検査時に落等も認められた。

本病は籾にのみ発生する。内外穎の縫合部あるいは穎の裂け目などから舌状の突起物を生じ、籾表面を黒く汚染する特徴がある。

イネ墨黒穂病の発生状況

- ・県央部の一部地域で産米検査時にイネ墨黒穂病による汚染粒が確認され（写真1、2、3）、落等したのも見られた。緊急に同地域で実施した本田調査では7圃場中1圃場で100株当たり1粒程度の軽微な発生を確認した。
- ・防除所の収穫期調査（100地点200圃場）で採取した籾を調査したところ、県南の1圃場のサンプルに1粒程度のイネ墨黒穂病の発生が認められた。
- ・本病の発生は全国的に希である。宮城県では昭和61～62年と連続して多発したが、昭和63年以降はほとんど発生が確認されていない。本年は宮城県、山形県でも発生が確認された。



写真1 汚染玄米の状況



写真2 汚染玄米の拡大
右：肉眼で確認できる汚染粒
左：肉眼では確認できないがルーペ等で汚染が確認可能な粒

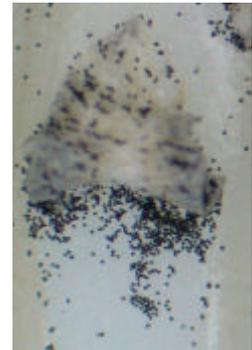


写真3 汚染部分の拡大

病徴と被害特徴

- ・玄米内部の一部に厚膜（黒穂）胞子が形成される。形成量が多くなると、内外穎の縫合部あるいは穎の裂け目などから舌状に胚と胚乳の一部が突出するとともに、墨を流したように厚膜胞子が流出し、籾表面が黒く汚染する（写真4、写真5）。稲こじ病は病もみ全体が黄緑色ないし暗緑色のだんご状になる点で異なる。
- ・籾すり調製時にこの厚膜胞子が玄米表面に付着し、汚染の原因となる（写真1、2、3）。
- ・本病は出穂直前～開花期に感染するものの、発生要因等不明な点が多い。なお本菌による育苗障害等はない。

防除薬剤

- ・本病にはフェリムゾン・フサライド（ブラシン）水和剤が登録されている。



写真4 発病穂
（舌状突起と籾の汚染）

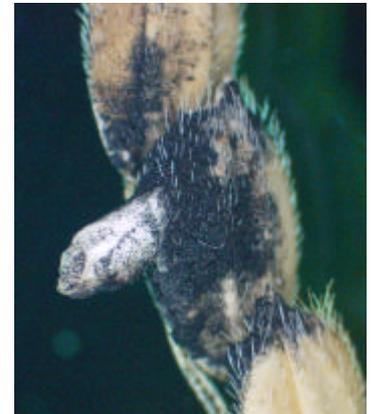


写真5 舌状突起の拡大